

千年の森便り No.252

2024.12.18

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

12月8日（日）天候 晴れ

12月の活動日は、紅葉に合わせて月の初めに実施しています。12月に入った豊英島は、コナラの落葉が進んで明るくなった森に、イロハモミジやオオモミジ、エンコウカエデの赤や黄色が青空に映え、美しい紅葉をたっぷり楽しむことができました。

ニホンジカ生息状況調査、樹名板作り、ロープワークの練習、歩道の支障木の処理などの活動を行い、軽く汗をかいて深まった秋の一日を楽しみました。

参加者は、久しぶりにご参加いただいた久我夫妻と、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、竹下、福島、村野の会員11名でした。また、坂本さんには畑で採れた里芋を、苅米さんには獅子柚子をお土産にご提供いただきました。ありがとうございました。（福島）



〇ニホンジカ生息状況調査

3か月に1回実施しているニホンジカ生息状況調査ですが、9月は雨で実施できなかったため6月以来半年ぶりの調査となりました。調査時間は10時から約30分、いつものように7コースに別れて島内を一斉に踏査してニホンジカを探しましたが、ニホンジカ、キョン、イノシシなどの確認はありませんでした。

ここ数か月、センサーカメラにはニホンジカの記録がなく、一方でキョンの記録が非常に増えており、豊英島の大型動物の動物相が変化してきている可能性があります。ニホンジカは植生に与える影響が大きく、植生保護のために島内に柵を設置してきましたが、今後はキョンによる影響や、イノシシによる植生保護柵の破壊などに対応していく必要がありそうです。（福島）



2コースを踏査する坂本さん

〇樹名板作り

千年広場に隣接するコナラ伐採区は、2014年初めにコナラ林を皆伐した場所で、数多くの実生が発生しました。その後、植生調査等を行いながら多様な森に成長していく経緯を見守ってきたところですが、皆伐後10年が経過して整理伐が必要になってきたので、豊英島らしい24樹種を保存木として選定し、それらがすぐ分かるように樹名板を設置することにしました。

樹名板は、防腐処理したヒノキ板に樹木名をテンプレートで転写しポスターカラーで彩色するスタイルで、会員の中田さんのノウハウを使わせていただきました。

参加者全員で、いつものチェーンソーをポスターカラーに持ち替えて神妙な面持ちで取り組んだ結果、個性豊かな作品が完成しました。今後、ニス（ニス）を3回塗りして完成です。来春を待って設置したいと思います。（伊藤）



全員で樹名板作り

○ロープワークの練習

シカ調査の後、日頃の作業に役立つロープワークとして「もやい結び」と「中間者結び」の練習をしました。もやい結びは、ロープの端に輪を作る結び方で、木をけん引して伐倒する際に括りつけたり、末端をチルホール等につなぐ際にとっても便利です。一方、中間者結びは、ロープの中間に輪を作る結び方で、滑車を利用した倍力システムを作る際に便利です。いずれもロープワークの定番中の定番です。

他にも同じような用途の結び方はありますが、この2種類については結びやすく、かつ十分な強度があって、ある程度大きな荷重が掛かった後でもほどきやすいという利点があります。急にあれこれ覚えるのは大変ということで、今回は敢えて練習する種類を絞りました。

一回覚えてしまえば、書籍やネット動画等の資料をちょっと見るだけですぐ思い出せます。あとは練習あるのみ、目隠しをしても、寝起き3秒以内でも、確実に結べるぐらいを目標に各自で特訓しましょう。それではご安全に、良いお年を！（竹下）



みんなでロープワークの練習

○ヒラタケの大株

シカの調査では第2コースを歩きました。並行する第3コースを歩く大原さんが祠山付近で「でっかいシメジが出てる」と呼びので行ってみると写真の通りの立派なヒラタケでした。

ヒラタケとシメジの関係では思い出す事があります。20年くらい前にスーパーの野菜コーナーでヒラタケが売られているのを見ましたが、パッケージにはシメジタケと大書きされ、かっこ内に小さく（ヒラタケ）となっていました。

その当時はヒラタケの栽培が始まったばかりで知名度が低く売れ残りを心配した知恵者が、色が似ていて美味しいきのこの代名詞であるシメジの名を拝借したものと思います。今はヒラタケの美味しさが認知され、本名で正々堂々と売られていますから、野生のヒラタケを見るたびに「ヒラタケ君 君も出世したね」と声をかけたくくなります。

ヒラタケは今昔物語にも登場する優秀な食菌です。以下は県立中央博物の資料の引用です。（坂本）



見事なヒラタケの大株

● 「信濃守藤原陳忠落入御坂語 28-38」

信州に赴任していた藤原陳忠（ふじわらののぶただ）は、任期満了で京都に帰る途中、馬もろとも谷に落ちてしまい、部下に引き上げてもらった。そうすると、まずヒラタケを部下に引き上げさせ、その次にヒラタケをたくさん抱えて自らあがってきた。そして言うことには、まだ下の方には沢山のヒラタケがあったが、残してきてしまった。「とてもくやしい」と強欲を笑う話です。この時代には、ヒラタケが一般に食べられていたことを示すよい例です。

○植生保護柵の修理

ナラ枯れによる倒木で破損した植生保護柵を、伊藤、村野で応急修理しました。豊英島の貴重な植生の保護には植生保護柵の適正な管理が欠かせませんが、柵の内側に発生したナラ枯れ被害木の処理には手を焼きます。(伊藤)



倒木で破損した植生保護柵

○豊英島の紅葉と活動状況など



青い湖面に紅葉が映える



オオモミジ



イロハモミジ



林床にはクロモジの黄葉



アカシデ



アカメガシワ



スノキ



ネジキの淡い紅葉



ヒイラギの花



ヒメコマツ



シロダモの花



シロダモの実



コショウノキ (つぼみ)



ヒイロタケ



不明きのこ



紅葉の森を散策



ロープワークに悪戦苦闘



カラフルな樹名板ができました

○センサーカメラの動物たち

11月17日から12月8日までの22日間の記録ですが、CAM1については11月20日以降電池切れ、CAM2についてはSDカードの不調で記録を読み出せず、CAM3については動物の記録がありませんでした。

CAM1で記録があった3日間については、キョンが3日間とも記録されていたほかは、アナグマが1日、タヌキが1日記録されていました。ニホンジカについては今回も記録がありませんでした。(福島)

- 設置期間：CAM1：11月17日～11月19日(3日間)、CAM3：11月17日～12月8日(22日間)
- 設置場所：CAM1(つり橋着岸点付近)、CAM2(ホテイ岬への分岐点付近)、CAM3(ホテイ岬先端付近)
- 日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1 キョン3日、タヌキ1日、アナグマ1日

CAM3 記録なし

お知らせ

○次回の定例活動は**1月19日(日)**です。

年初めの活動になりますので、初めに参加者全員で祠山にお参りし、その後、植生保護柵補修、危険木伐採、状況に応じてコナラ伐採地の刈り払いなどを行う予定です。

島に入る際は、ダニ対策とヘルメット着用を忘れずに！

ご参加をよろしくお願いいたします。



それでは皆様、良いお年をお迎えください

